

メールマガジン 2025年2-3月合併・最終号

主の聖名を賛美いたします。ケルンは小鳥の囀りと道端に咲いている小さな野花が春を告げています。今月末には夏時間に切り替わり、本格的に春を迎えます。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。毎月お読みくださっていたこのメールマガジンは今回が最終号となりました。この紙面を通してドイツでの様子を心に留め、時にはコメントを頂きとても嬉しく、また、励まされていました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、来週の3月19日には、いよいよ日本へ飛び立ちます。最後の3週間は、召された方がおられ、また一方では、洗礼式の執行と、悲喜こもごもでした。北ドイツ郊外に引っ越された元教会員のK姉が療養中でしたが2月11日に急に召され、私たちは唯々、驚くばかりで言葉が出ませんでした。3月7日に現地のドイツ教会で行われた葬儀に参列するため、教会の方々と一泊かけて行って参りました。私たちの教会独自の追悼式は来る3月16日に執り行い、私にとってはケルンでの最後のお役目となります。天国での再会の希望があっても現実的には寂しく受け入れ難いことですが、お葬儀に参列できたこと、そして、帰国寸前ギリギリですが、追悼礼拝のご用をさせて頂き、教会の皆さんとK姉を偲びながら天国に送ることができるので慰められています。

そのような合間の2月27日には、14歳・中学生M君の洗礼式を執り行うことができました。悲しみに包まれている私たちにとって、新しく生まれ変わったK君の姿から希望が与えられました。この時にこの洗礼式は、主の御取り計らいであったと感謝しています。後日、お母様からお聞きした事ですが、M君は洗礼証明書を机の前の壁に貼り、毎日それを見て1日を始めるとのことでした。証明書をどこか大切に仕舞っておくのではなく、目の前でいつも確認できる用い方もあるのですね…。

そして、3月9日は、教会の皆様が心を込めて「送別礼拝・感謝会」の準備してくださり、大勢の方々と9年間の思いを共有することができました。ケルンの皆様の温かなお心に感謝でいっぱいな一日でした。4月からは、日本基督教団・京都復興教会の担任教師として赴任いたします。主任牧師先生、そして教会の皆様のご理解を得て、7月頃までは東京に拠点を置いて、これまでお支えくださった教会へご挨拶させて頂く予定です。後日、ニュース・レターにおいても改めてご挨拶をしたいと思っています。お手元に届くのは4月になるかと思いますがお読み頂けると幸いです。

三寒四温のこの時、体調を崩すことがありませんようにお祈り申し上げます。これまでのご支援を心から感謝いたします。どうもありがとうございました。今後も皆様の上に主の豊かな祝福がありますようにお祈り申し上げます。

「支える会」のホームページにはドイツの様子がわかる写真も掲載しています。過去のメールマガジンも見やすくなりましたので、是非ご覧ください。<http://www.komatsugawa-ch.com/Pfarrerin-Ryokosasaki/mailmagazine.html>

2月27日 洗礼式
同世代による特別賛美も！



3月9日 送別礼拝
遠くから近くからいらっしゃいました
ボンヘッフアー教会の先生も。



教会から記念品として
寄せ書きとケルン大聖堂の絵画
を頂きました。大切にします！

